単施設研究用

脳深部刺激術後のパーキンソン病患者における発話リズムの病態解析-他疾患との発話症状の比較- に関する情報公開

１．研究の対象

1) 2013 年 4 月～　当院で脳深部刺激術(STN-DBS)を受けられたパーキンソン病患者の方

2) 2017 年 6 月～ 当院でパーキンソン病として通院している，もしくはパーキンソン病として診断された方

3) 2017 年 6 月～　当院で小脳疾患，上位運動ニューロン，下位運動ニューロンとして通院している，もしくはこれらの疾患として診断された方

２．研究目的・方法・研究期間

研究機関：実施承認日～　2020　年　3 月　31 日

研究目的：脳深部刺激術後に生じるパーキンソン病患者の発話障害(特に発話のリズム)機能に対する病態を明らかにし，発話機能の改善を目指す.

方法　　：当院脳神経外科にて脳深部刺激術を施行したパーキンソン病患者(目標症例数 20 例)を対象として，当院神経内科に通院中のパーキンソン病患者や小脳疾患患者などの神経変性疾患患者(目標症例数各 20 例)を比較対照とする．各患者の発話を音響学的ならびに聴覚的に解析し比較検討することにより，脳深部刺激術後に生じる発話障害の要因と病態を明らかにする.

３．研究に用いる試料・情報の種類

情報：生年月，性，病歴，既往症，合併症，服用薬剤，神経学的所見 等

試料：母音の発声，文の音読，/pa/の繰り返し 等を発話していただき，後に機械で分析します．その他，認知機能検査，行動や心理・神経症状に対するアンケート　等.

４．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地　名古屋大学神経内科

TEL ： 052-744-2391

名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科学

田中康博 （大学院医学系研究科／研究員）

研究責任者：

勝野雅央（名古屋大学大学院医学系研究科　神経内科学　教授）